



今年もあっという間に1月が過ぎました。2月は「如月」(きさらぎ)と言い、着更着(きさらぎ)とも書いて「寒さで着物を更に重ねる」とう語源もあるようです。インフルエンザの流行が大変気になるところですが、暦(こよみ)の上では「節分」や「立春」を過ぎ、あちらこちらで梅や菜の花が満開をむかえています。



東中では、3年生が1月末の私立高校入試と6日(水)の県立高校推薦入試を一人の欠席もなく無事に終えました。3月初めの県立高校一般入試もあと1か月。それぞれの進路の決定に向けて懸命に努力している3年生をみんなで応援しています。

## 2年生 立志の誓いを堂々と

2月1日(金)に本校体育館で、ご来賓や保護者、1・3年生に見守られる中、平成30年度立志式を行いました。

立志生(2年生109人)を代表して、児玉 姫乃 さんが「私の決意」を述べた後に、一人一人が自分で心を込めて書いた「座右の銘」を掲げながらステージ上で「立志の決意」を発表しました。どの生徒も、これまでの自分の成長に対して感謝や誇りをもつとともに、次代を担う若者として自己の将来や生き方についての目標を堂々と述べました。



後半の全員による「立志の誓い」や3年生激励の言葉(林龍哉 くん)もとてもすばらしものでした。2年生にとっては、4月から最上級生になるに当たって、その自覚と決意を新たにするととても有意義な機会となりました。

「私の決意」 代表：児玉 姫乃 さん

私には夢があります。それは、人を思いやることのできる人になることです。

立志にあたり、「温和丁寧」を座右の銘にしたいと考えました。人は、自分のことを一番考えてしまいがちで、人を思いやることは、それほど簡単ではないと思うのです。

私は職場体験で、いつでも人を思いやり、サービス精神でお客様のことを理解し、仕事をされている姿を見ました。私はそんな風にはできませんでしたが、その日から働くことについて考えるようになりました。

私は人に、笑顔や幸せの種を届けられるようなことをしたいと思います。だからこそ、人のことを思いやり、次の行動に移せるような人になりたいと思います。「未来の自分」は「今の自分」の先にあります。今の自分が成長しなければ、未来の「なりたい自分」にはなれないと思います。

今私は、「小さな思いやり」を大切にしています。例えば、「次の人のためにドアを開けて待つ」「使ったものや場所は、元のようにする」。また、「相手の方を見ながら、笑顔で話す」ことなどです。すぐに大きなことはできません。でも、小さなことでも、多く積み重ねることが大切だと思います。私は今、成長している過程にあります。だから私は今を見て、たくさんのことを吸収し、もっと広く社会を知り、さらに大きな夢や目標へと進んでいきたいです。

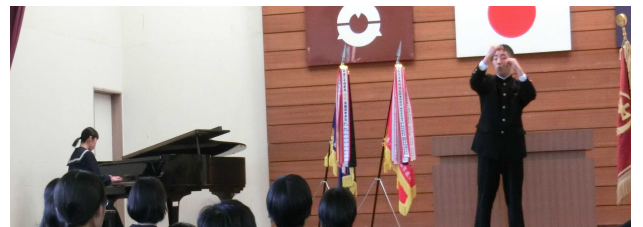
最後に、今まで育ててくれた両親や先生方など、関わってくださったすべての人への感謝の心を忘れずに、未来に向かって頑張っていきます。

## 新指揮者と伴奏者 頑張っています

3学期から、全校集会などで校歌を歌う時の指揮者とピアノ伴奏者がかわりました。

指揮者が入村 咲太 くん、伴奏者が黒木 彩花さん(共に2年生)です。先日の立志式でも、最後の校歌斉唱でしっかりと役目を果たしてくれました。

回を重ねるごとに二人の息もぴったりと合ってきました。1年間よろしくお願ひします。



## 善意を東南アジアの子どもたちへ

生徒会では1月末に、全校生徒で「書き損じ葉書(はがき)」と「未使用切手」を集めました。ダルニー奨学金といって、貧困で教育の機会に恵まれない東南アジアの子どもたちの中学校就学を支援するための活動です。葉書400枚で1人の子どもが1年間学校に通うことができるそうです。

今回の活動では、葉書が503枚、切手が852円分集まり、金額にして合計23,390円になりました。郵便局を通じて民際センター(公益財団法人)に送ります。みなさんの温かい善意を本当にありがとうございました。